



けやきっ子

最上級生の凜とした姿に

校長 長瀬 広幸

「例年はない」が今冬の枕詞ですが、積雪がほとんどない暖冬であったことを忘れ去らせるほど、新型コロナウイルス感染症の流行という緊急事態が、私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。首相による休校の要請によって、感染症予防対策のため3月2日から急遽、臨時休業に入りました。その間、学校では、長期の休業に対応するべく各学年の家庭学習の課題を準備しました。学童保育所は、長期休業中と同様に朝から開所することを決定しました。ご家庭でも、休業中の子供たちの生活への対応に追われたことでしょうか。急な決定に際し、困惑された保護者の方も多かったと思います。それでも、学校の願いを受け入れてくださり、適切に対応していただいていることに心から感謝を申し上げます。

5日の臨時登校日、校門前の横断歩道で立哨をしていると、子供たちはいつも以上に早い時刻に登校してきました。帰り際に子供たちの口から「やっぱり学校はいい」、そんな言葉もたくさん聞かれました。子供たちにとっても、この休みは、感染症予防のため自由に外に出ることができないという制限もあって、ストレスがたまっていることを感じました。流行が下火になり、1日でも早くこれまで通りの日常を取り戻せたらと願ってやみません。

そして、この事態で一番大きな影響を受けたのが6年生です。一生に一度しかない大切な卒業式なのに、時間の短縮、参加者の制限によって縮小せざるを得なくなりました。校長として、たいへん申し訳なく思い、臨時登校日に時間をもらって卒業生に謝りました。そして、たとえ時間が短く、参加者が少なくても、最大限、みんなにとって記憶に残る1日にしたいことを伝えました。装飾など在校生の手を借りられないですが、教職員総動員で頑張ります。その後、教育委員会の方針変更により、保護者の参加が認められたことが明るい話題となりました。私たちも保護者の皆さんと同じ会場で、共に卒業を祝福できることを心から喜んでおります。

今年の6年生は、「高めよう東根小」を合言葉に、挨拶運動やいじめゼロ運動に奔走しました。笑顔いっぱいの学校にしようとしてそれぞれ学級でめあてを決めて、一人一人の取組が花びらになってたくさん集まると大輪の花を咲かせる笑顔咲く咲くプロジェクトも実行しました。その成果もあって、地域の方から東根小の子供たちの挨拶や立ち居振る舞いに高い評価を得ています。これは自分たちの学校を愛し、自信と誇りをもって行動する最上級生の凜とした姿があったからこそだと思います。卒業生、ありがとう。中学校生活でその姿をさらに高めてください。

